

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)山手通五丁目 学生マンション計画	階数	地上13F
建設地	名古屋市昭和区山手通五丁目6番2号	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年8月21日
敷地面積	661 m ²	作成者	
建築面積	374 m ²	確認日	2020年8月25日
延床面積	2,333 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.1

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	74%
③上記+②以外の	74%
④上記+オフサイト手法	74%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

音環境	3.4
温熱環境	3.0
光・視環境	2.7
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

機能性	3.0
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.9

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.4
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	近隣住宅への圧迫感を軽減するため、高層部分は敷地中央に配置した。また、充実した居住環境及び居住空間を備えた施設とした。	その他 特になし。
Q1 室内環境	デイサービスセンターの機能訓練室には窓を多く設置し、十分な自然光が入るように計画した。住戸間の間仕切り壁は耐火壁とし、内装材はF☆☆☆☆を全面的に使用している。	Q2 サービス性能 各室にインターネット設備を設け、通信手段の多様化に対応できるように配慮した。内装仕上については維持管理がしやすい材料を選定した。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数が10%以上となるように緑化計画をしている。また、歩道に面する部分を積極的に緑化し、雰囲気や和らぐようにした。	
LR1 エネルギー	高効率給湯器を採用し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生機器を採用し、省エネルギーに配慮している。
		LR3 敷地外環境 戸数分の自転車置場及び適切な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)山手通五丁目 学生マンション計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2	
2. 自然共生	評価点 = 1.9	
3. 循環型社会	評価点 = 3.0	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。